



古今俳諧明題集煉部目錄

秋篠	角觥	熱肉	残暑	傾入	踊躍	暮春	文殊會	七夕雨	六月五夜	初葉	初煉	銀灯	借水寺子日詣	身靈	三井子女詣	林篁入	露	初暴風	煉鷹	海蛟	第廻	煉螢	海伊	霧	送峯入	花砲	靈祭	海鏡	七夕鞠	七夕	七夕
十一	十一	後九至	八	七	六	五	三	三	初葉	後初玉	二	三	四	五	七	七	ハ	十	十一	十二	十二	十一	後十一玉	九	ハ	七	五	後四玉	三	二	二

古今俳諧明題集煉部目錄

目錄

精鈴	後十二	阜各	十三	蟋蟀	十四
紡績姑	十四	金邊兜	十五	久於海虫	十五
獨角仙	十五	天牛	十五	虫	十五
赤年花	後十五	敗荷	後十六	花敗荷	十七
五十六		蘭	十七	於枝花	十七
筒	十七	旋後花	十八	栝枝	十八
秋海棠	十八	馬唐	十八	女青	十九
剪髮	十八	鬱金花	十九	雀麥	十九
野菊	十九	萩	十九	稻花	十九
芭蕉	十九	海芋	十九	西瓜	十九
早稻	十九	壺蘆	十九	絲瓜	十九
冬瓜	十九				

刀豆	廿一	海芋	廿一	蕃椒	後廿一
毛桃	廿二	一葉	廿二	菱柳	廿二
木樨	廿三	二百十日	廿三	八角	廿三
釋奠	廿四	海芋	廿四	栝枝	廿四
三日月	廿四	司馬	廿五	月	廿五
名月	後廿五	十五夜雨	廿七	放生	廿七
海駒	廿七	初潮	廿八	放水	廿九
案山子	後廿九	那西	三十	野和義	後三十
三十一		和名	後三十一	雁	三十一
孝化	廿二	桑鳥	廿四	赤木鳥	廿四
加桃	廿三	鷓鴣	廿五	鷓鴣	廿五
乾	廿四				

カルソバ 卅五
 鱈魚 卅七
 鰻魚 卅七
 下葉 卅八
 翠鴨眉 卅九
 新冠花 卅九
 芒花 四十
 藍花 四十一
 零餉子 四十一
 牛蓋旁枕 四十二
 苗子松 四十二
 鹿 卅五
 鈔鈔 卅七
 老法輕 卅七
 鰻鱈魚 卅八
 鳳仙花 卅九
 雁來紅 卅九
 蕙花 四十
 牡丹分根 四十一
 芋 四十一
 芸苔子蒜 四十二
 菜松 四十二
 鮫 卅七
 海鰻魚 卅七
 杜父魚 卅八
 芝野 卅九
 紫苑 卅九
 芒 四十
 蕙花 四十一
 蓮實松 四十一
 子松 四十一
 本賊刈 四十二
 若冬枕 四十二

茯苓劄 四十三
 五瓜 四十四
 匏 四十四
 沼出蛇 四十五
 野文胡 四十七
 長衣 四十八
 新酒 五十
 靛 五十一
 魚擇 五十一
 地砂 五十二
 泥唐 五十三
 黃草 四十三
 葡萄 四十四
 本葉茶 四十五
 九日并菊 四十五
 十三衣 四十七
 衣字 四十八
 魚鱈打 五十一
 家誠名池 五十一
 爵入大水鳥蛤 五十二
 茶子青 五十二
 松ふ髪色 五十二
 栝栲 四十四
 白英 四十四
 本犀 四十五
 沼轉像 四十六
 宝市 四十八
 揚衣 五十
 露霜 五十一
 熊鈴 五十一
 紅葉餅 五十二
 紅葉 五十二
 南玉燭 五十三

賽珊 <small>ウメモト</small>	五十四	梨 <small>ナシ</small>	五十四	橡 <small>ドク</small>	五十四
栲 <small>カキ</small>	五十四	栗 <small>クリ</small>	五十四	松栢 <small>ザクロ</small>	五十五
柑 <small>カン</small>	五十五	包栢 <small>カウシ</small>	五十五	金栢 <small>キンカン</small>	五十五
回青橙 <small>タイク</small>	五十六	纒 <small>リ</small>	五十六	小栢 <small>コカ</small>	五十六
榲 <small>カ</small>	五十六	栢 <small>シ</small>	五十六	菓 <small>クワ</small>	五十六
焠 <small>アキ</small>	五十七	蔓 <small>マ</small>	五十八		

古今俳諧明題集秋部

六月立焠

年トシはハちのチ喜ヨシげニ春ハル一ヒト字ジさサ志シ焠ヒ
 おオしシけケこコ焠ヒハハ入イりリ夏ナツ六ムちチ
 けケ月ツキ一ヒト歩フ行ユクもモりリ水ミヅてテあアつツさサりリ那ナ
 焠ヒもモ涼スズみミのノ京キョウ
 焠ヒのノ来キてテ間マ計カやヤ竹タケ史シ人ヒト
 焠ヒのノ来キてテ間マ計カやヤ竹タケ史シ人ヒト

初焠

たタしシ里リ帆フのノ又マタしシのノ焠ヒをヲ神カミゆユりリ李リ
 凌レイ宵ユのノをヲ吹フ消クしてシりリさサるル焠ヒ

古今俳諧明題集卷之三

目録三

撞オシいもくく路のちくや編カタ打戸 凉レイ備
 吹フク落く雲に若あそく出イる路 全
 耳ミミとて靴本位の馬やう路の路 李北
 路ミチきりや様をまきまよる 淵フチ性
 相アイの葉は枯モシ識シくぬやまきまよる 如ニ岱
 浦ウラまゝぬニりニにニまニりニさニの路 紙シ作サ至シ
 際サヘの名は一色やえくそ路も秋 紫苑
 庭ニくニもニかりニ路ニりニ出ニる路 可コ卿
 徑ホリは地路くニまニ持ニやニ路ニの路 伊イ勢セ浪
 大オホ河にも一葉のふびやう路の路 其ミ江
 拾ヒクふりぐ油くニまニりニ路ニの路 同ドウ山ヤマ田タ已イ翠

愈ユきもゆいひきと夫くそ路も秋 同ドウ山ヤマ田タ已イ翠
 路ミチたのや路の内の内へ入路 同ドウ山ヤマ田タ已イ翠
 月ツキ影カゲを刺サきまふにうそ路の路 江エ戸コ鳳ホウ
 初ハジメ路は初ハジメひく路や較カキ勝カチの喬タカ 江エ戸コ鳳ホウ
 赤アカくらえぬやに若あそく路も秋 布フ川カハ
 何ナニ性セイもま卦クハに入イるそ路も秋 上ウヘ野ノ胡コ曉キョウ
 さく馬ウマふらぶら水ミヅしけさはあそ 乙ニ強キヤウ
 蓮レンの葉ハはかかた物モノきりさくそ路 江エ雨アメ篁ササ
 妻ツメ夏ナツの何ナニまをちまきまよる路の路 江エ正セイ戸コ翻フタ
 流ナギの帆ホも一合イツカフ減ヘふやうさ路の路 武ブ伊イ山ヤマ
 夕ユフぐれも妻ツメふらぶら水ミヅしけさはあそ 凉レイ備

七夕 シチセキ

紅きいさりいさや星の別よよ
 希因
 親のあはれいさや星を恋
 涼儀
 星の恋んあまのあはれ
 全
 言はまあえく川あり星の恋
 雲郎
 水
 我々に言ふてはあはれ星は恋
 趙砂
 そ乃河で涙あはれ星のあはれ
 玉負
 おりふと人にせせく星はし
 一約
 牛で来はれ氣も後うも星の恋
 全

七夕雨 シチセキ

新牛の傘をがめてや橋をく
 支考
 天園や雨にふせく二のほ
 涼儀

銀河 あまの

光いせのあはれにうまあまのかは
 其角
 微くさいねながあまは下波
 兎士
 あはれ人にせんく飲ませ下波
 珈涼
 世にうらみしきぬ水や下波のうら
 梅路
 飛つ星の使はあまの海をかは
 青藍

系玉^子栳をもつるゆるゆると
宿波ゆるゆると出て出たり天の河
地に疾流橋の比羽矣やあまはか
さく流り或是をおほさよ流^{カハ}流

起波
多破
女栳
凉栳

七夕^{カハ}鞠のま^{カハ}
斜^{カハ}窠鞠の衣^{カハ}返るの^{カハ}や貸小袖
織女^{カハ}もてま^{カハ}見もゆる^{カハ}鞠は^{カハ}巻

去^{カハ}
流^{カハ}放
呂^{カハ}口

文殊^{ヒンジュ}會
又殊^{ヒンジュ}之の^{ヒンジュ}皆^{ヒンジュ}也^{ヒンジュ}や流^{ヒンジュ}ゆる^{ヒンジュ}牛^{ヒンジュ}に^{ヒンジュ}糸^{ヒンジュ}

京
仙^{ヒンジュ}流^{ヒンジュ}

文殊^{ヒンジュ}會^{ヒンジュ}や^{ヒンジュ}意^{ヒンジュ}に^{ヒンジュ}覺^{ヒンジュ}き^{ヒンジュ}思^{ヒンジュ}ハ^{ヒンジュ}か^{ヒンジュ}

撰^{ヒンジュ}伊^{ヒンジュ}丹^{ヒンジュ}
鬼^{ヒンジュ}貫^{ヒンジュ}

清水寺千日詣<sup>きよみづのちのつてらや
んふらまらで</sup>

出^{カハ}ま^{カハ}ゆる^{カハ}ひ^{カハ}の^{カハ}あ^{カハ}で^{カハ}ふ^{カハ}日^{カハ}ま^{カハ}ゆる^{カハ}で^{カハ}神^{カハ}
け^{カハ}流^{カハ}子^{カハ}の^{カハ}は^{カハ}栳^{カハ}を^{カハ}巻^{カハ}つ^{カハ}く^{カハ}

凉^{カハ}栳^{カハ}
風^{カハ}之^{カハ}

靈^{カハ}祭^{カハ}つ^{カハ}たり^{カハ}

東^{カハ}流^{カハ}ゆる^{カハ}ゆる^{カハ}日^{カハ}の^{カハ}流^{カハ}は^{カハ}よ^{カハ}果^{カハ}ま^{カハ}は^{カハ}け^{カハ}
是^{カハ}つ^{カハ}ま^{カハ}ゆる^{カハ}ま^{カハ}際^{カハ}駒^{カハ}や^{カハ}瓜^{カハ}も^{カハ}ゆる^{カハ}じ^{カハ}
靈^{カハ}栳^{カハ}や^{カハ}流^{カハ}せ^{カハ}ま^{カハ}あ^{カハ}へ^{カハ}ま^{カハ}は^{カハ}け^{カハ}
好^{カハ}お^{カハ}ハ^{カハ}音^{カハ}ゆる^{カハ}流^{カハ}ゆる^{カハ}た^{カハ}ま^{カハ}は^{カハ}つ^{カハ}ま^{カハ}

凉^{カハ}栳^{カハ}
全^{カハ}
全^{カハ}
全^{カハ}
全^{カハ}

蓮池にくのりくや靈 古由
 冥柳や杉ハかざれど水も 平胡
 目に見えぬものいそがし 夏森
 冥糸皆まゝい麻にほ 野披
 結てむ未歌降枝あり水たまはつ 希因
 沼の目も志ほこむゆや冥まは 桐原
 今起る踊ぬ影や多未は法理 双飛
 麻まのりぬまくりや靈まつり 三四坊
 物まハ難ま^荒あ^荒たまは 玄帝
 土^ハ盤^ラに味^ラ暗^ラのつく日や冥よつ 珍詩
 西行よ^ハ冥^ラり^ハ老^ハは^ハや冥^ハは^ハつ^ハ理 一麻

赤しらへ^ハと^ハ沼^ハの^ハ衣^ハや^ハ多^ハ未^ハ後^ハ都^ハ理 李北
 水^ハく^ハけ^ハに^ハ壻^ハハ^ハ来^ハに^ハり^ハ靈^ハまつ^ハり 李北
 墓 参 ^{た^ハり^ハま} ^{あ^ハり}
 墓^ハの^ハ歌^ハに^ハつく^ハや^ハは^ハは^ハは^ハお^ハり 東起
 上^ハ下^ハ法^ハ家^ハ小^ハお^ハれ^ハつ^ハ墓^ハま^ハお^ハり ^{石^ハ見^ハた^ハ田} 素岸
 生身 靈 ^{た^ハま^ハい^ハき^ハみ}
 ち^ハの^ハより^ハ馬^ハく^ハさ^ハひ^ハや^ハ生^ハ身 靈 ^{任^ハ加^ハ美^ハ松} 汶村
 生^ハ為^ハ靈^ハ貝^ハの^ハ於^ハ子^ハと^ハつ^ハと^ハま^ハび ^寺 卷

燈籠

谷くにあハ寺あ言^{天燈}燈籠
 山寺ハ吊^{ツル}桶^ビも言^子燈籠^ハ
 あけく^{ヤミ}暗あはく^カ燈籠^ハ
 又^ハハ^カに^ヨめ^カ言^と燈籠^ハ
 消^レふ^カ言^マり^ハ燈籠^ハ
 葉^松樹^ノ実^ノい^はは^カ言^と燈籠^ハ
 出^逆旅^婢女^ハ言^とり^ハ金^吾燈籠^ハ
 言^とり^ハま^の人^ハ言^とり^ハ燈籠^ハ
 茅^相を^静め^に昇^は言^とり^ハ燈籠^ハ
 言^とり^ハは^カ言^とり^ハ燈籠^ハ

江夫
 一朶
 艸鬼
 楚雀
 斗
 艸羽
 凉宇
 去路
 画洲
 日懸

踊り

を^とり^ハ子^ヤ歎^ノの^らい^ハを^戻げ^つ
 お^サ投^ガも^うち^に文^ゆく^踊々^那
 白^ケ曉^カの^星見^え涼^むを^ど可^うか
 何^ぶ言^とり^ハ思^ふを^こり^ハ
 清^に来^て神^めの^志は^ぬを^りハ
 何^ハ今^あく^意を^どり^ハ
 お^愛常^況を^神子^ハ見^てあ^は踊^々か
 輪^好の^あそ^につ^るを^とり^ハ
 飛^ぶあ^む言^とり^ハ踊^々か

禹洗
 枝上
 南斗
 東起
 以^詩言
 柳波
 複雪
 五綾
 其梅

松板にこまどありせしをとりて
 船にいれにるりまをとりて
 巴^{エヤウジ}時^シ紙^シ挿^{サシ}へまづり乎^カ登^{ノボ}里^リを
 心を十^トのけしき^キをゆくをとりて
 沼^ヌぬく目に^メも身^ミふもまづりて
 角^{カク}融^ト人の骨^{ホネ}もやりく^ク踊^ノッを
 羽^ウ衣^イを^シし^シこのま^マ踊^ノの^ノ那^ナ
 象^{ゾウ}跡^{アト}の^ノ後^ノを^シ見^ミに^シゆく^ク踊^ノッ那^ナ
 を^シとり^テ子^コや^ヤ故^コに^シ後^ノの^ノま^マも^モ交^マり
 回^マり^マて^テハ^ハ時^{トキ}ゆく^クを^シとり^テ那^ナ
 沅^ユ水^{スイ} 可^カ郷^{コウ} 可^カ由^ユ 樓^{ロウ}川^{ケン} 兎^ウ士^シ 雲^{ウン}所^{ショ} 一^{イチ}麻^マ 涼^{リョウ}紙^シ 全^{ゼン}

三井寺女詣 こゝろを
んかまうで

三井寺中^{ミヅイ}女^メ詣^キ女^メも^モ茶^チむ^ムく^ク茶^チ 波^{ナミ}と

花炮 はな

いろくの^サを^シ見^ミて^テ後^ノく^ク茶^チ炮^{パウ}は
 身^ミぬ^ヌさ^サぐ^グ人^{ヒト}も^モあ^アる^ル身^ミは^ハ茶^チ炮^{パウ}は
 襟^{エリ}くの^ノ麻^マも^モあ^アる^ル身^ミは^ハ茶^チ炮^{パウ}は
 湯^ユ土^ツの子^コは^ハ身^ミは^ハ茶^チ炮^{パウ}は
 根^ネに^シも^モ身^ミは^ハ茶^チ炮^{パウ}は
 園^{エン}に^シも^モ身^ミは^ハ茶^チ炮^{パウ}は
 千^チ代^{ダイ} 去^キ路^ロ 阿^ア波^ハ 野^ノ音^{オン} 萩^{ハギ}丈^{チヤウ} 李^リ卿^{ケイ}

頃入の歌

つと入やすの 蒸にひちがひ
はと入やうの 門帷を揚ぐ
つと入やホエ吹くひまき 拂蘇杓も出ぬ
朝入の 榮とつと入もかうりあ子
伊勢山田笑林
宗乙
素之冠子
梅

好林葉入 あきのや

やぬいアヤ 踊海妹に去る 帰程
林葉入や 木のる 秋月も照る 一
雲和
秋

送家入 ふやくの

家入や 夢を 睫に くらひ 志を
日ハ西の 秋さきに ちや 涙の 露
こひ入や 庭拾ふ 秋 一
水

残暑 あつさ

浪の 部に おろし 秋さきに ちや 暑さ
けうち 小の 秋さきに ちや 暑さ
持る 水に 庭に 拾ふ 秋 一
神 浪の 露に 秋さきに ちや 暑さ
川 中に 行者の 跡に 秋さきに ちや 暑さ
鷗 ニギ ハまぐ 海に 庭に 秋さきに ちや 暑さ
素因
胡周
和鳴
李趙
一鼠
梅路

葉は身もすくぬらさぬあつさか
夏艸の露ぞに海は河つさうあ
蕨のよりしけくおほあはさか
一鼠
武詩
如竹

露 つゆ

あつあや梅にえさす風つつの山
ふあや野さの露はくはくし記
土盤カハラケレ除あましくくみゆこ
しらあや葛に雲が青く曇く
海の色はふさばるるくおまあ
あましく月と来ると半あま
荷兮
李北
左祇
正俊
西羊

あや歌は月日をそかへ歌
上里
柳

露 さみ

あや梅法はくおを鳴ぶ
あや踊すゆめてあまゆく
あはちや梢のはしは露の中
藤原
文里
羅人
下
有

熱 閃 づい

あつあや山を麻させぬゆく
熱閃や二に夜にきてさあ
あつあや伽藍小してハ又あ
希因
病
閑
工

いなばまの齋をゆきや水もろと 景園
 いろづきや 袴の何よりを引めくほ 目袴
 いろづきや 後の略も見えくろり 柏之
 熱閃や 室にもろくぬまのゆき 焮午
 いろづきや 紙格穿れをぬくゆき 一洞
 いなばまの 木はと見えくかへりり 雨石
 いろづきや 野中の松に影あくる 多破
 熱閃の輪や ちがふく風のありに 雲帯
 いろづきや 座禪のちひいろ見え 也有
 いなばまや 因まへても破 紙格 一扉
 いろづきや あみなりのを地に置け 黄生

熱閃や 夏はくくまき 涼備
 いろづきや 夏のくくまき 芭蕉
 いなばまや 依いよにやかあ 燕山
 熱閃や 小路の形に折まきゆき 青藍
 初暴風 はつあ
 角触くまきけくまきろぞ神あり 梅路
 いろづきの唐くまきろぞ神あり 百夫
 砂楡の帯にむくれおきや神暴風 芭蕉

焮風 あざき

あうくく日ハつるも海のは
 涼袋
 海はや静穏をぬみをはく
 全
 故のには列著く暮あは海まは
 全
 村^{ヒアツキ}に折目のつくや何さはうせ
 全
 毛栗^{イガツリ}のりりやうそあは海まは
 六柿
 葛の葉はうそあは海まは
 故周
 海はやまは冷まう馬から蟹
 希因
 海はやまはうそあは海まは
 等白
 相の葉をさ八月けう海のは
 如丹
 海はやまはうそあは海まは
 生可
 海はやまはぬ色意もうそあは海まは
 斗光

西の海馬^{スモトウマ}やあまあま可歩
 海^{下は海}水
 海はやまはうそあは海まは
 文
 秘^{クモノ}林^ノ網^スにむまびわがう海まは
 文
 武^武海^海西^西

角^{カク}瓶^{ビン}
 涼袋
 皆^{ホカ}意^カのあは海^海まはうそあは海まは
 扇^{大和柳木}計
 海はやまはうそあは海まは
 左明
 出^イ海^海まはうそあは海まは
 吐雲
 海はやまはうそあは海まは
 舌芝
 海はやまはうそあは海まは
 眼石

南北の人ハちいさき角カハ

為谷

秋鷹

あきの

鷲をやまゆらんく響はく水水

千那

秋螢

あきの

輝光につけく滅けく不^レ消^レる香
低く飛ぶ草や因縁をくう

鳳毛
五仙

秋蝶

あきの

蝶々や今産海、草のいほ

東奴

秋蚊

あきの

蚊の蚊は柱まづに管^{ヤブ}名中
蚊の蚊や麻にも命と身へ来ぬ

夏言和
両石

茅蜩

あきの

日くくや持く屋ても草の日の
ひくくやま^{イル}く人の粟瓜も
茅畑や松づくに徒^{アキ}名に徒^{アキ}
おくくや西へ伽藍の光の時
ひくくや登く寺ハ詩もす

丹波良系
涼備
尺梅
杉路
涼宇

日くくくやりの志まひれ一里極 上毛お極
 ひくらくや鏡まきさの侍表の歌 映石
 比久殿之や元トケイに自鳴鏡のせす侍表 乙源
 玉く冠しや元ハ子ツルベにそす昏結 五表

蜻蛉せいらん

つるまに一時やまむむむが小 全極
 遠山や陸陸率ツビゆさつひうへ歌 全極
 蜻蛉や鳴くぬかりりに浮れま 全極
 岸より水に傾キレんぼる 全極
 準コッ繩を見よして水侍蜻蛉 全極

蜻蛉や花より極に棲あひ 全極
 んんぐやまむい小川の破あ海に 全極
 道のまにまらふくまの陸陸小 大和
 鶺鴒アシカの同をたぐくむがう妙 全極
 蜻蛉やのしもせぬねを乾く居侍 全極
 水くか尻ぐまて水侍まほる 全極
 橋さの縁に日のまく蜻蛉うを 全極
 陸陸は徒くまむや後しあひ 全極
 映鏡アヒの紙ヤウシ極に寄く陸陸うを 全極
 むまむめれもる水くおひく陸陸小 全極
 おのが月にあおあひくらんが小 全極

白シカケにひより見つきてらんガクを

涼宇

陰枝のおろしてゆくやハチツルヤ棒

蓬園

進シノひ子の髪カミいひふふ家ケ轉マたうを

梅多

茶チヤ州シュウへカ蛇ヘビガ舞マふとむカが小

兔洲

阜ヒゲ蠡シ

縦タテ横ヨコにいそぐ者モノしといイがガ々ツな

京 笠飛

物モノ・舟フネ・園ニ龜カメ・虫ムシ・えエ・教シヨウいなイなナどドうウな

一湖

うウづヅいてイてテ蟻アリの起キあアがガ阜ヒゲ蠡シ小

洞居

蟋蟀シラカバ

縦横にいそぐ者しといが々な

きキくクくクとト穴アナにも啼ナびビまマりリくクも
居イ隔ワカも物モノ入イりリくク何ナニもモ起キまマぐグに
そソとトうウ舟フネ子コへヘあアらラりリまマりリぐグを
暮キにニまマるル古コびビやヤつツきキくク地チ 降フ
にニしシ本ホンもモあアらラにニ降フやヤ地チ 降フ
者モノひヒまマのノさサてテもモ居イるル地チ 降フ
ふフにニしシくクそソハハ浦ウラへヘつツてテまマるルくクも
葉エハもモしシやヤ翠スヅクのノちチくクちチうウくクも
冨フ園エンにニ目メのノあアくクあアやヤまマりリくクも
あアらラむムいイくク麻マ糸イトのノ多タくク地チ 降フ
押オシおオりリ歯シにニまマりリまマりリ地チ 降フ

左の葉は 文州 希因 去路 山城 松花堂 涼帝 全 和水 青 蘆 一 原 全 杉町

鶴のさざりやささくも
雄小偏やたぐえくも
庭ろつこの下に物ありきりくも
糸を吐け秀ありきりくも
青園を爬く出にりりありくも
立向に暮の志づくや隱陣
振く月宿松は中やさりくも

武村
上毛
雨竹

素
太茂
綾女
旭路
素輪

紡績娘

まつむしやいらく冷めても糸の香
はゆむしやあつ絶頂の粒さびし

まに
活光
州
披

金鐘兒

まどむしや清波のこへ啼にゆく

琴詩

父都和年之

漢名未詳

ひとりしてやうけんやくしりて

再機

獨角仙

系法ぐらんとづしやかぬく

東起

天牛

菱柳 繁さうりむりの 従へ居侍 吳岐 本因

奥 びー

手賣や 町を三アアけく 看はる 上毛古海 戸外 貞至

牽牛花 あさ

あさくふや 大工の 碓氷 ぼた 希因
あさくふや 町を三アアけく 看はる 全
あさくふや おのが 蔓 ツル 地縁 ツタ に 敷く 素因
あさくふや 聖 ミヤコ の 花 ハナ くら 極く 遠く 全

あさくふや 花や 本位 ほんゐ の ね ころ 一 全 今
あさくふや 保 たも や 保 たも に とも とも 柳 やなぎ 一 紅
あさくふや 庭 にわ に 裁 は せ 庭 にわ 間 ま 一 有 蕙
あさくふや 庭 にわ に 裁 は せ 庭 にわ 間 ま 一 涼 佈
あさくふや 庭 にわ に 裁 は せ 庭 にわ 間 ま 一 全
あさくふや 庭 にわ に 裁 は せ 庭 にわ 間 ま 一 兔 士
あさくふや 庭 にわ に 裁 は せ 庭 にわ 間 ま 一 柵 居
あさくふや 庭 にわ に 裁 は せ 庭 にわ 間 ま 一 可 樂
あさくふや 庭 にわ に 裁 は せ 庭 にわ 間 ま 一 一 原
あさくふや 庭 にわ に 裁 は せ 庭 にわ 間 ま 一 心 秀
あさくふや 庭 にわ に 裁 は せ 庭 にわ 間 ま 一 深 魚

敗醬 をこか

孫人にまかさうほやをみかへー
 こくくハ先へまハばやをこくくー
 吹くくハ先のおかーをこくくー
 赤色に野やかこかけをみかへー
 け 冥く冥りぬ花やをみかへー
 海伊のあけめくくをこくくー
 桑止子くくハ先ぬ花や敗 郎
 刈草子姑ハ先ぬ花やをこかへー
 稜くの怪や押くをこかへー

加賀 封上

希因

凉備

全

超波

後川

沼

子

文袋

ろくくくハ先ぬ花やをこかへー
 あちくくハ先ぬ花やをこかへー
 以たてくハ先ぬ花やをこかへー
 萩故枝ハ先ぬ花やをこかへー
 之子のありけやをこかへー

祇棠

凉洲

以秀

西羊

麥林

白花敗醬 をこか

垂塚にこくくハ先ぬ花やをこかへー
 おやこちくハ先ぬ花やをこかへー
 山の名をあざハ先ぬ花やをこかへー
 をとこへハ先ぬ花やをこかへー

猪白

杜門

祇十

仙竹

古今和歌集卷之三

蘭 ふちは

草ハハハ 續く中にぬらぐは 東奴

蕙蘭 らん

蕙のまゝ 尻のまゝ 中葉花は 涼節

葉はもや 沼さく 梅名 冬へ 備中 琴時

胡枝花 はぎの

霧 露にまゝ 伊のふくさや 枝のむ 上毛板鼻 如巢

小刀のまゆも 伊のふくさや 枝のむ 川夕

秋海棠 シウカイソウ

沼海棠 西瓜のいろに 霞小うす 芭蕉 ほは山

旋覆花 せんぷく

をく 海まや 興 こころ やり 思ひ 色 交風 百尋

桔梗 ききョウ

夕即ち 桔梗 枝の中へ 清く 如芥 ほは山

古今和歌集卷之三 十八

古今片歌明題集卷之三

み六日ぬくしう実くさうやううあ
刈草子に級の出事居栞校か
似介

剪秋羅 せんを

大は法におかい色し奪路屋
子

馬唐 まとう

まゆしきりり草ちん花のほゆ
ままひくさ見くひのまけに入居
芭蕉
一原

女青 めあいく

るるこは原ゆく殺や玉いとまれ
祇のるん野了の柿や奪いとほあ
依雨
東起

野菊 のきく

小ゆに雞思細ハ考く野菊うあ
そくらのれつまうゆく野菊うあ
昔草採は露に露海野まうく
谷多に碎しゆゆもく野菊うあ
柳居
阿僧
琴詩
十字

鬱金花 うきんが

~~~~~  
枯も見えせむうらんの花はいほ  
丹波柏原  
菊院

古今行史月頁集卷之三  
十九

古今詩明題集卷之三

雀 麥 かやる

実うたう刈くもあらしに雀 麦ハ

江行言野  
本合楚 仙

芭蕉 をせ

寒山に遠いく見えはむさ歩ぬが  
放泰の久いごとくむせをう那

仙臺 相原

いろくに日のごまはる芭蕉が

江戸 來川

あらしは刻ぐぬたむせをう那

上毛前橋 吹雁

切くの人もたぬ波世平う那

全 枕岸

萩 とぎ

海水のおいても萩は身材言

美波 如行

稻花 いねの

竹へ遅く花の序や稲も花

殊午

早稻 よせ

涼しきや子稻の多ひはむ衣り  
早稲の多や蟹踏りけ敷磯はき

麥林  
支考

殊紫茄 あきか

古今詩明題集卷之三

三十一



古今詩歌明題集卷之三

日く終くはちどくもひむねは茶  
かに名のつけやうもくはなまひ

信濃松本  
可津羅

西瓜くわい

つめア〜ハ〜終のまの西瓜くわい  
宛將橋ツクリハシにをま〜るま〜西瓜くわい

珈凉  
兔士

冬瓜とうり

あゝ瓜戸二百十日もおと終〜  
かもしアヤのつ〜〜瓜くわい人ひと表あは  
あゝ瓜くわいやあゝ瓜くわいち〜た〜瓜くわい

維鳩  
禹貢  
烏林

うも〜アヤハタケ圃ハタケの形に終ははく

江戸  
水羅

壺蘆實ゆふが

ゆふががやぬハ庭にの〜  
壺かあやゆふ庭にも名なハつ〜  
ゆふががや庭にあや〜あや〜

麥林  
儿山  
楚岫

絲瓜まへち

日の終をささ〜入まは絲瓜まへち  
網は目に水も〜〜瓜まへち

東起  
笑田村去

刀豆 よるめ

ひらやひらやの様に清くみら

下院 孤帆

燈籠 ぶふい

あつややあつやあつやの口小

一音

あつややあつやあつやの口小  
あつややあつやあつやの口小

阿坡 市雪

蕃椒 らうが

目に海を志すは是こころか

大輪 松

垣根にもくもくをこころか

信女 紫紅

一ひつ文ゆく好やさうか

負丘

硝子へ入ても見ゆやさうか

度江

桃實 のちい

ゆ実の桃や三葉児に見せく居侍

下院 谷水

毛桃 けも

香剥も初々毛桃の老にりま

曾呂利

一葉 ひと

あつやと地にをくまを一葉小

京 江棧

古今行状用類集卷之三

古今戸部明題集卷之三

九二六

鷗の冠毛をかき一葉う那  
それだけの月を影一葉う那  
映陸は百ハすくひとまう那  
煥養は一ハ消くくハ一葉う那  
榴櫛の飛鳥く結一葉う那  
打插工に席あせく一葉う那  
敬るくぬ人の了者へひとまう那  
と陸の中ハ見くくまとはう那  
友角カへ行日のやえは一葉う那

白枝  
其由  
崇江  
孝文  
双飛  
也  
京  
烏文  
仙衣  
桂露

敬柳

ちるや  
あふ

船底に大工の舌やあやうそ  
うらひもも展ねくちうそ  
ひぐりのゆきやそのてやあ柳  
と見祢を誦ハきくは敬やう那  
船底は美く持味や敬やう那  
路の祈はゆやあやう那

一  
里  
有  
千  
保  
白  
羽

木槿

アス  
登はすあふく志あむ木槿  
枝打は皮の板さぬむくやう那  
四五尺ぐあは原向木槿う那

鬼士  
病文  
凉備

古今戸部明題集卷之三

九二六

古今片歌明是集卷之三

北三

植 繁々夕日に見えぬむくげハ  
目 葉の待すまけくむくぢハ  
捷 徑 及とつゝを毎うぬむくげハ

其葉

柳四

雲和

二百十日 にひやくとをう

柳 柳 柳 二百十日を定めり事  
かりぬや二百十日の口をさみ

涼素

去路

ハ 朔 ハツサク

ハ 朔 朔 朔 朔をかりこす事  
ハ 朔 朔 朔 朔に影出は梅の花

麥林

超波

ハ 朔 朔 朔の待すまけくむくぢハ

龍言

焮 釋奠 シマツデン

吹 吹くを焮や夜のおくく

來也

焮 彼岸 ヒカン

あさぐほとさるをたぐ彼岸ハ  
新米は海よにとまらぬ彼岸ハ

汶上

摺扇置 あふぎ

屋 屋 屋 屋のくひ遠く扇ハ那

入楚

古今片歌明是集卷之三

北三

雁ひとし見定めて屋く廊々那  
とア響く屋てもあぬあふぶか  
一 葎

三日月 つき

さびしはは門に入りア三日は月  
ちひあけは枝まつふや三日の月  
是りは見えはらし三日は月  
又届けは本橋に入敷や三日は月  
はしはくは瀬菟ハ言三日は月  
本の居くは兔の身やみりはつき  
去路

子丹

葎

希因

一葎

法言

其梅

去路

司召 つき

みの座ハ橋女ははかさ矢一  
此君

月 つき

あうりく粗の歯ふく家若月  
月子一楳ハ雨を持か  
あを吹け月のはくはあ  
其角  
芭蕉  
紹巴

名月

名月や文く舞はのあひさ  
全 麥林

名月や明ほいすに行あさり  
 名月の舟や何そこのあさり  
 名月や伊さく見くそまき  
 博覧のまきにあさりやうは  
 名月やあふなき橋やうの月  
 名月やあさり見くは  
 名月や人に麻くひる鶏もあ  
 作白に麻く不あもあさり  
 名月や何を鳥名あてゆく  
 名月や何に何そぬも一衣  
 麻衣にすそあはあさり

素因 全 希因 全 涼備 全 全 全 大坂 全 梅路 全

とを見ぬるは情さやうふの月  
 二つとハ戸を設けぬ月見  
 月見むと名けをきし海酒は  
 五月雨に能く清く居てうさ  
 名月やこよひハ重のうさ  
 名月や名交おふいそさ  
 新し記はも溢るうさ  
 名月や見のまき清は海のも  
 名月や海籟ハおのうさ  
 名月やあさりあはを焼く  
 名月やあはにそあはも出

温故 祿 平 紀 龍 在 再 大 舊 一 西

名月や硯をるめは榎ハ木は  
 名月や雪おろくぬく海垣守  
 早ひとの火續に持く月見小  
 名月や起<sup>タツナミ</sup>波くハ穴のうち  
 名月や榎に船のふはすごと  
 飛ぶ<sup>フ</sup>よのやりにたまたま月見小  
 名月や<sup>ソラ子</sup>解<sup>トキ</sup>糸は<sup>ハ</sup>波の海  
 名月や<sup>ソラ子</sup>虚<sup>ソラ</sup>巻も<sup>ニセ</sup>恨<sup>ニ</sup>はく<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>多  
 あさぐな<sup>アサグナ</sup>結<sup>ムス</sup>るに<sup>ニ</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>や<sup>リ</sup>ふ<sup>ハ</sup>の<sup>ツ</sup>き  
 名月や濁き<sup>ナ</sup>海<sup>ノ</sup>の<sup>ハ</sup>木<sup>ト</sup>本<sup>マ</sup>  
 雨山の榎く<sup>ニ</sup>ま<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>の<sup>ツ</sup>き

青蓋  
 伊勢四日市  
 宇津  
 日  
 宜角  
 甲斐  
 泉布  
 萩丈  
 伊勢津  
 二日坊  
 行徳岩村田  
 鶴山  
 蕪帆  
 白杖  
 女は  
 雲裡  
 文庫

名月や<sup>アサグナ</sup>結<sup>ムス</sup>るの子を<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>の<sup>ツ</sup>き  
 水船に<sup>ミヅフネ</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>の<sup>ツ</sup>き  
 野むく<sup>ノムク</sup>る<sup>ハ</sup>藤<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>吹<sup>ハ</sup>ぶ<sup>ハ</sup>や<sup>リ</sup>ふ<sup>ハ</sup>の<sup>ツ</sup>き  
 名月や<sup>アサグナ</sup>雪<sup>ユキ</sup>お<sup>ハ</sup>ろ<sup>ク</sup>ぬ<sup>ク</sup>海<sup>ノ</sup>垣<sup>ノ</sup>守<sup>ノ</sup>  
 園の<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>の<sup>ツ</sup>き  
 氷<sup>ヒ</sup>海<sup>ノ</sup>く<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>の<sup>ツ</sup>き  
 名月や<sup>アサグナ</sup>雪<sup>ユキ</sup>お<sup>ハ</sup>ろ<sup>ク</sup>ぬ<sup>ク</sup>海<sup>ノ</sup>垣<sup>ノ</sup>守<sup>ノ</sup>  
 榎に<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>の<sup>ツ</sup>き  
 名月や<sup>アサグナ</sup>麻<sup>マ</sup>奴<sup>ヌ</sup>を<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>の<sup>ツ</sup>き  
 物陰ハ<sup>モノカゲ</sup>物<sup>モノ</sup>陰<sup>カゲ</sup>で<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>の<sup>ツ</sup>き  
 名月や<sup>アサグナ</sup>便<sup>ベン</sup>を<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>の<sup>ツ</sup>き

乙路  
 加涼  
 江文  
 六柿  
 麦<sup>アヲ</sup>舟  
 上を<sup>ウヘ</sup>下<sup>シモ</sup>へ  
 女<sup>メ</sup>子<sup>コ</sup>  
 栢<sup>カシ</sup>江  
 下登  
 小<sup>コ</sup>田<sup>タ</sup>系<sup>ケイ</sup>  
 由<sup>ユ</sup>  
 芭蕉

言をりく人を休め侍月見は 全

十五夜雨 あめ

名月や破雲へ侍らに ハナクモリ 花下 涼休

雨雲小衣を昨やりのついで 炭喫

ハウモヤウエ 放生會

ヤカガウ 柳菴や菴まてつちて放生と云 麥林

人到る桑山子へりや放生會 涼休

合點しと徳に麻屋見や放生會 洗雪

戸袋へこもひはあさりはうしやくと云 去路

駒牽并駒迎こまひさ

むさしやと能くうへりりみの駒 涼休 根津伊丹

駒牽やちの侍紫馬に乗つて 江戶 蛸房

滑ひくと袂交自慢やりかきあま 白陀

とつけも侍野とハいたりりか侍駒 榎雪

駒ひきや牛を逐ぬく駒 涼休

駒牽やさきと駒を又うしりひ 水戸 涼休

弱きうか人むくしあまむくへ 水戸 涼休

駒むくへはかけも平に侍 武 涼休

駒へは板東あやこはむくへ 武 涼休



駒堂やそ〜月も肥くゆく 禹貢

すの梅く舞舞更侍や駒堂へ 百夫

驪に月ち〜とふはむ〜 紫藤

授テウ小珠上の流や駒む〜 許六

初潮はつ

神酒や暮さぬ水もつ水〜ゆく 古由

神酒や細い糸に帆〜け每 江嵐蘭

と川志不や鶴の尾はぬまで来歌 依は藍水

放水おこ

秋家の流る環消〜り秋多 凉備

と〜る〜に飛ぶや放水 雲郎

飛越〜屋屋ハ見え〜りた〜水 破了

清子洗〜雨を〜りやお〜〜 六柿

屋更〜田毎の園やた〜〜 曲阿

お〜水極ハテはた竟も〜〜 可昇

案山子か

奥州の道若く侍勢は案山子か 加賀金沢 三十六

冷まの中に枯きゆく案山子か 史丸

さ可ひいよ水かよふやどか〜〜 祇丞

古今片歌明題集卷之三 廿九

結ツミ系ムシ虫ムシとおきふく依ヨ倚ル素ソ山ヤマ子コハ  
 零イモ鉈ノ子コのちひるやうイモ鉈ノ素ソ山ヤマ子コハ  
 よまツつぬ有ナ情ナの中ナにかカーー々々那ナ  
 吹フきヒにニ綿ワタくくきシめメかカーー々々那ナ  
 ぐぐくくとと櫻オウゴンのノちチぬヌ素ソ山ヤマ子コハ  
 老チ海イ老ハ婆バはハねネにニまマるルなナかカーーハ  
 物モノいイらラぶブりリふフもモ葉ハゆユくクかカーー々々那ナ  
 赤ニらラへヘくク一ヒト人トハハ疾イ倚ル素ソ山ヤマ子コハ  
 百ヒャクとト勢セのノ男ヲとト赤ニくクかカーー々々那ナ  
 ゐニ人ヲをヲ纏ムつツくクろロふフくクーーハ  
 了リ医イ者シヤのノ車ヲしてシテ急イサ倚ル素ソ山ヤマ子コハ  
涼洲 麥林 全 鬼士 全 凉備 青藍 百道  
麓 芳斗 二毛 龍龍 静

綿ワタ少オのノにニ糸イトねネくク水ミヅ倚ル素ソ山ヤマ子コハ  
 城シロ跡ヰのノ道ミチはハ見ミるルくクかカーー々々那ナ  
 長ナガ目メ遠トホ目メ道ミチをヲ見ミるルもモ素ソ山ヤマ子コハ  
イナツマ舞マフ閃マツのノぬヌきキもモをヲりリてテもモ素ソ山ヤマ子コハ  
 人ヒト里サトをヲちチちチちチへヘ倚ル下シタくク系ソ那ナ  
 船フネ旁ナリのノ燈アキラをヲきキくクーー々々那ナ  
 遠トホ月ツキにニハハ影カゲ袖スリーブをヲ捨スレぬヌ素ソ山ヤマ子コハ  
 弓ユミ杖ヅツにニ赤ニくク阿ア比ヒゆユくク素ソ山ヤマ子コハ  
 舟フネのノちチぬヌ服ハク事ト又マタてテ居イるルかカーーハ  
 鷗ウはハ巢ネストにニまマるルぬヌまマてテかカーー々々那ナ

射堂 維鳩 江蘆英 雲郎 全 洗雪 雁志  
修徳小法 同 松有 松前 同 松前 雁志

古今片歌明是集卷之三

那留古

田舎に一人の屑をー那留古也  
川ひよりのあはれまをほるうな  
撰叙史の老をやーなれこり那  
本後の報はーめや那留古は  
さひーはあふてもあぬをほこり  
欠うーおきよハキー奈源古は

凉備  
可枝  
梅人  
千婦  
王才

撰津西宮  
後河内

野和幾

解魔法師の忍ろーうる海野に  
度まー馬はまが野に

双飛  
凉備

鳴きに撞本のうごくはー我は  
割れを先起ー海野に  
鶴鶴の起るはころが野に  
糸唐ハ巽をうげー野に  
水多の河むぐを海野に  
懐胎の海見ー海野に  
恙々々のかにかつー野に  
やまをんーハ月の出て見海野に  
新洲のあまー海野に  
捕死へまー海野に  
明鏡にうーをゆか出を野に

全  
鬼士  
去路  
鬼洲  
長眉  
浮珠  
及上  
萩原  
凉字  
成棠  
末了

古今片歌明是集卷之三

廿一

くありハ四圃に滿くく野りきり那

江案山子

鳩蹄の投出さくく侍野りきり那

堵克

鶏冠の砂あびて飛侍野りきり那

甘古

涼まじくくまおろくく野りきり那

琳李

蒲葉は一回にさくく野りきり那

花明

一の家の中をくくむはりきり那

丁由

交違きへ茶のをさくく野りきり那

乙疎

意の出うけく美野りきり那

古由

命入て、活も又くぬ野りきり那

全

枝舟を一日はく野りきり那

一葉

常葉木の秋くく野りきり那

一葉

笠紐の志まじくく野りきり那

全

編笠を帯へ折くく野りきり那

涼戸

山鶴の尾に候く野りきり那

霞舟

網撒く家を押へ侍野りきり那

涼楓

秋草は種蒔くく野りきり那

破了

堂上に吸くく野りきり那

冠子

田も圃くく野りきり那

艾梅

一時に備昭見のぬけ野りきり那

蓋

剛力のねくく野りきり那

可也

人あぬ雑の中さくく野りきり那

雨管

あの柿はくく野りきり那

雨管

椒園丈の碁ぶはアアアアアアア  
 恙飾一 愚樵ものアアアア那  
 今射法と素山子のアアアアア  
 鷲冠の根をくわらげアアアアア

如鴛化爲田鼠 てうづらけして  
 粟此穂やびくも船もあがア  
 涼備

和多理登里

兼をアアアアアアアアア  
 他の多アアアアアアアアア  
 支考  
 麥林

兀山をおのケアアアアアア  
 口状ハアアアアアアアア  
 草にアアアアアアアアア  
 練鶴ハアアアアアアアア  
 鶴やアアアアアアアアア  
 音とアアアアアアアアア  
 音藍  
 百川  
 晴帆  
 凉備

雁

けアアアの男アアアアア  
 神アアアアアアアアア  
 音とアアアアアアアアア  
 湖十  
 素園  
 一鼠

何冷ッぬ巻して居侍や其のノノ  
 今へまゝ後さざりや<sup>ウシロ</sup>さう侍り  
 一居居又侍る國の森ハ赤に  
 神ノや東<sup>アト</sup>居侍るの<sup>アト</sup>赤<sup>アト</sup>もウへ  
 唇<sup>アト</sup>啼<sup>アト</sup>禱<sup>アト</sup>に<sup>アト</sup>油<sup>アト</sup>を<sup>アト</sup>た<sup>アト</sup>づ<sup>アト</sup>の<sup>アト</sup>赤<sup>アト</sup>も  
 校<sup>アト</sup>傍<sup>アト</sup>ひ<sup>アト</sup>と<sup>アト</sup>ま<sup>アト</sup>ま<sup>アト</sup>を<sup>アト</sup>し<sup>アト</sup>ノ<sup>アト</sup>赤<sup>アト</sup>  
 神ノや<sup>アト</sup>赤<sup>アト</sup>い<sup>アト</sup>ハ<sup>アト</sup>赤<sup>アト</sup>も<sup>アト</sup>後<sup>アト</sup>や<sup>アト</sup>先<sup>アト</sup>  
 於<sup>アト</sup>船<sup>アト</sup>の<sup>アト</sup>鳥<sup>アト</sup>にも<sup>アト</sup>貸<sup>アト</sup>さ<sup>アト</sup>び<sup>アト</sup>と<sup>アト</sup>侍<sup>アト</sup>か<sup>アト</sup>ア  
 附<sup>アト</sup>鳳<sup>アト</sup> 全<sup>アト</sup> 凉<sup>アト</sup>侍<sup>アト</sup> 柳<sup>アト</sup>居<sup>アト</sup>  
 残<sup>アト</sup>馬<sup>アト</sup> 麥<sup>アト</sup>林<sup>アト</sup> 潮<sup>アト</sup>城<sup>アト</sup> 許<sup>アト</sup>石<sup>アト</sup>  
波河の 終七尾

胡桃雀 ガヤマ

やはが<sup>アト</sup>ノ<sup>アト</sup>や<sup>アト</sup>脊<sup>アト</sup>中<sup>アト</sup>又<sup>アト</sup>て<sup>アト</sup>居<sup>アト</sup>侍<sup>アト</sup>水<sup>アト</sup>も<sup>アト</sup>と<sup>アト</sup>  
 吟<sup>アト</sup>風<sup>アト</sup>

於<sup>アト</sup>樵<sup>アト</sup>菴<sup>アト</sup>の<sup>アト</sup>ノ<sup>アト</sup>ア<sup>アト</sup>ぬ<sup>アト</sup>け<sup>アト</sup>と<sup>アト</sup>ノ<sup>アト</sup>怖<sup>アト</sup>ぢ<sup>アト</sup>ら<sup>アト</sup>山<sup>アト</sup>  
 兎<sup>アト</sup>士<sup>アト</sup>

桑 鳩 マメハ

冷<sup>アト</sup>ハ<sup>アト</sup>飽<sup>アト</sup>く<sup>アト</sup>居<sup>アト</sup>侍<sup>アト</sup>も<sup>アト</sup>又<sup>アト</sup>え<sup>アト</sup>を<sup>アト</sup>は<sup>アト</sup>め<sup>アト</sup>よ<sup>アト</sup>ハ<sup>アト</sup>ー  
 鬼<sup>アト</sup>塚<sup>アト</sup>

斲木鳥 テラツバ

重<sup>アト</sup>圖<sup>アト</sup>へ<sup>アト</sup>ま<sup>アト</sup>く<sup>アト</sup>祈<sup>アト</sup>の<sup>アト</sup>者<sup>アト</sup>や<sup>アト</sup>と<sup>アト</sup>つ<sup>アト</sup>き  
 啄<sup>アト</sup>本<sup>アト</sup>も<sup>アト</sup>や<sup>アト</sup>侍<sup>アト</sup>見<sup>アト</sup>お<sup>アト</sup>が<sup>アト</sup>え<sup>アト</sup>く<sup>アト</sup>飛<sup>アト</sup>ッ<sup>アト</sup>へ<sup>アト</sup>侍<sup>アト</sup>  
 笑<sup>アト</sup>林<sup>アト</sup> 驚<sup>アト</sup>象<sup>アト</sup>  
とまお

鷓鴣 シブ

ニ<sup>アト</sup>ま<sup>アト</sup>と<sup>アト</sup>く<sup>アト</sup>ハ<sup>アト</sup>起<sup>アト</sup>さ<sup>アト</sup>ぬ<sup>アト</sup>う<sup>アト</sup>づ<sup>アト</sup>ー<sup>アト</sup>の<sup>アト</sup>お<sup>アト</sup>  
 笑<sup>アト</sup>林<sup>アト</sup>

碇<sup>トコ</sup>林<sup>ノ</sup>層<sup>チ</sup>の<sup>ナ</sup>撮<sup>サツ</sup>金<sup>ガネ</sup>を<sup>シ</sup>買<sup>カ</sup>ひ<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>語<sup>カ</sup>ら<sup>ハ</sup>な  
 同<sup>ニ</sup>若<sup>シ</sup>れ<sup>ド</sup>中<sup>ノ</sup>へ<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>一<sup>ニ</sup>出<sup>ダ</sup>れ<sup>ド</sup>づ<sup>レ</sup>づ<sup>レ</sup>ド  
 一<sup>ニ</sup>あ<sup>リ</sup>て<sup>モ</sup>と<sup>モ</sup>い<sup>は</sup>し<sup>テ</sup>も<sup>シ</sup>な<sup>ら</sup>ず<sup>シ</sup>語<sup>カ</sup>ら<sup>ハ</sup>那  
 美<sup>ノ</sup>の<sup>ミ</sup>ま<sup>は</sup>ぬ<sup>キ</sup>に<sup>シ</sup>後<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>づ<sup>レ</sup>づ<sup>レ</sup>な  
 角<sup>ノ</sup>鯨<sup>ノ</sup>人<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>砂<sup>ニ</sup>に<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>ほ<sup>ろ</sup>づ<sup>レ</sup>づ<sup>レ</sup>か  
 お<sup>の</sup>ろ<sup>ろ</sup>と<sup>シ</sup>ほ<sup>ろ</sup>ろ<sup>と</sup>あ<sup>け</sup>ぬ<sup>ろ</sup>づ<sup>レ</sup>づ<sup>レ</sup>う<sup>ろ</sup>ぬ  
 坂<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>度<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>短<sup>シ</sup>し<sup>と</sup>啼<sup>ク</sup>づ<sup>レ</sup>づ<sup>レ</sup>  
 氣<sup>ノ</sup>み<sup>し</sup>づ<sup>レ</sup>に<sup>シ</sup>あ<sup>を</sup>ぬ<sup>き</sup>が<sup>シ</sup>歌<sup>う</sup>づ<sup>レ</sup>づ<sup>レ</sup>ド  
 雁<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>室<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>ぬ<sup>け</sup>づ<sup>レ</sup>づ<sup>レ</sup>一<sup>ニ</sup>と<sup>モ</sup>う<sup>づ</sup>づ<sup>レ</sup>か

鷓鴣もど

大<sup>ノ</sup>阜  
 万<sup>ノ</sup>有  
 吟<sup>ノ</sup>風  
 麦<sup>ノ</sup>亦  
 鬼<sup>ノ</sup>士  
 伊<sup>ノ</sup>山  
 伊<sup>ノ</sup>山  
 伊<sup>ノ</sup>山  
 伊<sup>ノ</sup>山

目を<sup>シ</sup>海<sup>ノ</sup>へ<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>杖<sup>ヲ</sup>杖<sup>ニ</sup>し<sup>て</sup>あ<sup>ら</sup>ま<sup>ら</sup>む<sup>も</sup>  
 星<sup>ノ</sup>ひ<sup>し</sup>づ<sup>レ</sup>の<sup>ノ</sup>杉<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>は</sup>づ<sup>レ</sup>づ<sup>レ</sup>や<sup>シ</sup>鷓<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>ど

鷓鴣もど

山<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>に<sup>シ</sup>ま<sup>は</sup>の<sup>ノ</sup>田<sup>ノ</sup>も<sup>シ</sup>阿<sup>ノ</sup>や<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>ど<sup>の</sup>ま<sup>は</sup>え  
 つ<sup>づ</sup>づ<sup>づ</sup>と<sup>シ</sup>は<sup>ノ</sup>霜<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>杖<sup>ニ</sup>し<sup>て</sup>小<sup>ノ</sup>田<sup>ノ</sup>を<sup>シ</sup>ん<sup>た</sup>鷓

帰燕つわめ

燕<sup>ノ</sup>や<sup>シ</sup>か<sup>へ</sup>ア<sup>ラ</sup>し<sup>く</sup>水<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>殺<sup>ス</sup>や<sup>シ</sup>  
 好<sup>ノ</sup>鳥<sup>ノ</sup>を<sup>シ</sup>尾<sup>ノ</sup>に<sup>シ</sup>ま<sup>は</sup>し<sup>て</sup>つ<sup>づ</sup>づ<sup>づ</sup>と<sup>シ</sup>先  
 燕<sup>ノ</sup>や<sup>シ</sup>海<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>く</sup>お<sup>の</sup>ろ<sup>ろ</sup>と<sup>シ</sup>も

古今詩集卷之三  
 丹後宮津  
 踏鳥洲  
 伊山

燕アサオキや 拾ヒとさうりぬかへアヤ  
 風アサオキ起ヒも来キはくはくへたつためが  
 燕アサオキをヒくくくくはは燕アサオキうか  
 起鳳  
 楚調  
江相蝶

鹿 志々

若ニヤウジのあ 紙ヒ格キ家カとバ月ツキも入イ敷  
 床トコぬ程ハに寝ヨ衣ギ出デして何ナニも若ニヤウジのあ  
 二人ニヒト痛イタく若ニヤウジも出デたり麻アサはあ  
 官ツカサ櫃ツツ若ニヤウジくハ妙タマシ一ヒト志シ々シは志シ  
 沼ヌマ伊イヤヤ里リぬもへ志シ々シ志シ一ヒト志シ  
 麻アサも若ニヤウジ々シく人ヒトもく若ニヤウジも志シ々シ

素園  
 野的  
 白枝  
 珈凉  
 梅隣  
 一麻  
 貞至  
 西羊  
 楚岫  
 多少  
 志々

飛トビ燕アサオキハ身ミの外ソトへ落オたり麻アサのあ  
 少コりコ々シ若ニヤウジにニのノや若ニヤウジも角ツノ  
 目メは若ニヤウジもモ雄オスのノ若ニヤウジ麻アサのノあ  
 山ヤマ若ニヤウジくク花ハナへヘ一ヒト志シ々シは志シ  
 常トコ流リのノ清スミ之ノ味ミも若ニヤウジ々シ志シ々シ  
 羽ハネ立タハ組クミひヒ袋フクロのノ奥ウラにニ一ヒト志シ々シ  
 浪ナミ水ミヅやヤ若ニヤウジも若ニヤウジ底ソコや若ニヤウジ々シ志シ々シ  
 居イるル若ニヤウジ月ツキよりヨリ一ヒト志シ々シのノあ  
 猿サル人ヒトのノ二ニ首カミハ若ニヤウジ々シ志シ々シは志シ  
 床トコぬ人ヒトは若ニヤウジ々シ志シ々シ一ヒト志シ々シ

素園  
 野的  
 白枝  
 珈凉  
 梅隣  
 一麻  
 貞至  
 西羊  
 楚岫  
 多少  
 志々



穿く付あがりくハ葛根・麻草・丁糸

上毛安中 蔣溪

まいもの故博さへりて葛の草

祇翠

喫く付付後毛の衣領エリや麻草マ草

洗雪

客のまゝサシキ履ハキおろり麻草マ草クサ

茶サシキ来

間マくは束のツル梅ウメや麻の聲コエ

東起

角の代セ作リ去のシ海ウミをヒく麻草マ草クサ

伊勢大 度江

三日月ミツギを見とミけり麻の草マ草クサ

麥推

麻ヒサシ草クサはハ麻草マ草クサやマ草クサ

可由

麻ヒサシ草クサはハ麻草マ草クサやマ草クサ

麥舟

美ミにニ付ツ付ツ朝アサ端ハはハ枝エやマ草クサ

汶上

鱸ル子コ

茅チのノ葉ハはハにニまマしシらラえエはハまマいイまマいイ

維鳩

八月ハチグヒのノ瀛オキ海ウミはハあアらラまマいイまマいイ

依ヨ依ヨ二

鱈タ魚イサたち

古コ刀カ魚イサやマ網アミをヒきキ破ヤ海ウミ皆みな魚イサももああく

上毛小泉 石城

鮎アサギ釣ツつツまマいイ

鮎アサギ釣ツつツまマいイまマいイ

支考

海ウミ鱸ル搜ソウいイまマいイ

網に又といくや涼備  
吹よりいかにあり海破了  
拾はせぬ網の蔭物

過臘魚 さけ

初るに鱒魚や丹後  
むむふふで末

老溪鱒魚 あさひ

字はまのあはれ寒瓜  
はなはれ瓜

杜父魚鳴 かくだ

落はるはな汶上

下築 やくだ

夕月も及く常陸龍寺  
とまはやく儿

鰻鱺築 やな

悠ねたおと大な村

花野 のか

角持く牛を岸  
花野虎

一音 登麦の車あふ 跡 馬 草野の系  
 畏蹄くけく 灰のおきろき 草野小  
 階階の小柄にむふ 冬那々那  
 ゆくゆく 顔の指ろぬ 冬那々那  
 涼宇 馬に冷花は花野々々  
 文東 刈草子の扇を捨り 花野の如  
 一鼠 賢馬を草花へ 投るは波野々々  
 鳥朝 大鶴へ 投るは波野々々  
 曾平 願く 襟のゆふも 毛のうね  
 何因 家畜く 旭は 交敷は なれ かの  
 門瑟 吾衣 持に見く ぬく 花野々々

麦舟 麦並 法系 草 雲 花野の那  
 青藍 吸く ぼ 根を 漢く ゆく 花野小  
 全 南 瓜の 植を ぬき には なの かな  
 翠蛾眉 月く 草 花 半 輝 ぬ 居 侍  
 丹後金谷 吉 丘  
 鳳仙花 鳳仙花  
 下毛足利 梅種  
 紫苑 紫苑

野草かどおろく見おろそ花は

雞冠花 けいけい

赤いそや ハナキ あくくくく カイ 霞て居居  
 等月もまがぬ寺や ケイ 冠 ケイ 冠花  
 そんかぶに大半はよの冠 ケイ 冠花  
 鶏之掃 ケイ 掃く ケイ 掃く ケイ 掃く  
 日あつりハ時も去く ケイ 冠花  
 清つそに赤ハ ケイ 冠花

雁来紅 こけい

紫を御衣にのふ ケイ 冠花

芒 ホト

月を屋くカハ ホト 芒  
 居く ホト 芒  
 身 ホト 芒  
 情 ホト 芒

芒花 ホト

赤い ホト 芒花  
 標 ホト 芒花

けほを遠くけく居ほき花々を

琴詩

かい袖を揺く見せしほき花々を

許六

縁の外は外杖の床や花々を

加賀金沢  
深更

是弱を横遠いさう歌き花々の那

王才

双生山まのさあふれ花々を

見風

初芽のささくきくをばか

祇徳

帆へかへゆの船ゆくをを

未了

蘆花 あしの

蘆葉のささくさくやそ鬼のを

中門下  
湖宙

船へ船目ハ大津しあーかん

武  
祇棠

蓼花 たでの

つくと妙ほ暑さや蓼花

百川

襟くも蓼花冷ゆ中や花々を

士鳳

藍花 あいの

おのが葉に麻斑ゆひ了中藍の葉

信濃善光寺  
路友

真船へ折ほをうさもゆき藍の花

東起

牡丹分根 まがねの

ちがひるん歌してふかほ牡丹

江戸  
柳鼓

古今片哥明是魚卷之三

蓮 實脱 はすの  
こぶ

蓮のふたハ階にもるしむ、飛にりりマ 蕨本

蓮のふたハ階に飛にりりマ 終旭

蓮のふたハ階に飛にりりマ 伊勢山田  
春諸

蓮のふたハ階に飛にりりマ 素梅

零餘子 こぬ  
り

階階のくむぶ着うはぬうでハ 暖家  
有る

芋 いも

目をあて海断 きり  
こ 概とあや芋 圃 京  
蝶夢

草綿採 と  
り

おにーくちのぬはは海や海 圃 涼備  
大和外山  
東梅

くく採や油小あまうく 脊中 圃

午夢挽 こが  
ひき

泥足の毛もむくく 午夢挽 東起

蔓 蔓子 蔕 か  
よ

蔓のふたハ階にりりマ 破  
了

古今片歌明是魚卷之三

四十一

木賊川 とくさ

百姓のふくもろくは本城川  
 双飛  
 爪はくまたりなむ里やとくさ川  
 涼洲  
 海の日を休み磯をややくさ川  
 維鳩  
 海のつひハ産カトしつひく本城川  
 青藍  
 磯りつゝ齒のくく毒やとくさ川  
 西羊

茜草アケカタ あくろ

白峨アケカタの空見えくやうり茜草あくろ  
 橘セ子ハ幡山

薬堀 くすり

いんろくに席のまじやくもろく  
 汶上  
 茅菴に消くく根もろく茶ほり  
 伊勢 千波  
 馬紀伊医者に灸の痕アトくもろく  
 馬腹  
 ヒクサ首クサの灸アト度もろく茶ほり  
 時風  
 ほと不アの草にもさめてくもろく  
 青藍

苦参挽 くすり

積持のさくひあふり苦参挽  
 維鳩

茯苓ふくろ あつ

古今片歌明題集卷之三

古今片哥明題集卷之三

茯苓や劔ツケをえつゝるのき

紫用英

葦タケ 獵タケ

葦タケ 獵タケ やさるるやあそはけり

上毛館林 耳風

葦タケ 獵タケ やあそはけり

其角

葦タケ 獵タケ やあそはけり

金谷

葦タケ 獵タケ やあそはけり

亀文

葦タケ 獵タケ やあそはけり

千世

葦タケ 獵タケ やあそはけり

管吹

葦タケ 獵タケ やあそはけり

上毛前橋 如柳

葦タケ 獵タケ やあそはけり

如柳

栝カキ 樓カキ

魚ツルシ 柿カキ けりまぎりからま瓜

上毛太田 為水

王瓜たま

たまつさやその蔓ハ皆ちりり

破了

葡萄ブドウ

あはるる葡萄して見せは葡萄小

李北 茂殊

古今片哥明題集卷之三

四十四



白英 いひやうじ

飛花にハ陸ぬひよとりと戸カ

汶上

艶 べふく

の山をの相あつりまゝぬくべカ

白枝

去にえ侍々多ハるはしの艶カ

兔士

海伊の去へをすほぬくぬうを

木路

ううくとすゞ花のあは艶あぬ

蓼太

別たて尾崎新のそくふくべカ

晴帆

原ぬまガへりガをガといほ艶うぬ

可郷

うごうしてサゴロ靄のまづむぬくべうを

洗雪

ふけアカサをアカサにアカサもアカサがアカサふくへカ

西羊

木芙蓉 モクフヨウ

うつくしい影に艶うほ芙蓉さうか

冬扇

相対葉の一枚をぬぬうう那

秩父小鹿野  
百梅

木犀 モクセイ

木犀や海もくく見ほまひあて

信濃小法  
瑞芝

殊出替 あきついで

出替や先のあきハあつりもども

涼侘

九日 菊

二水  
 秋ナに花ハく菊キクつくらふく思オモひりて  
 秋ナしはおもひシ種タネしりふを菊キク  
 飛トビ子コうウ初ハツ水ミヅくク菊キクうウりリふフのノ菊キク  
 衆タテマツくク花ハをヲいハくク持テくク菊キクふフはハさサくク  
 舟フネのノ月ツキくク人ヒトにニ負オモはハやヤ園キク菊キク  
 下シタ戸ドのノ月ツキへヘふフえエくクハハ見ミせセばバうウはハ菊キク  
 うウふフはハ菊キク拾ヒりリてテうウはハ菊キク  
 はハうウさサをヲうウくク菊キクうウへヘせセ菊キク 菊キク 菊キク  
 午ヌ時トキうウハハ酒サケにニぬヌゆユやヤさサくクはハ菊キク  
 深フカ更ミ 雁ガシ志シ 凉スズ宇ウ 凉スズ依イ 素ソ園エン 梅ウメ 荷カ 上ウヘ毛モ足タラシ利リ

後川  
 双羽  
 支考  
 青藍  
 双飛  
 煉袋  
 紫苑  
 笑鴉  
 祇亟  
 圭宇  
 梅史

蓮ハスのノ実ミもモ鼻ハナをヲ穿スりリりリみミまマさサくク  
 穿スりリさサひヒ事コトのノ酒サケやヤりリみミのノ花ハくク  
 菊キクのノ思オモひヒくク赤アカくクさサくクのノ花ハ  
 一ヒト人ヒトとト抱アひヒうウあアくク菊キクのノもモかカ  
 氣キのノ色イロいハなナはハ志シあアけケやヤ菊キクのノもモかカ  
 鼻ハナにニあアひヒくク鼻ハナはハやヤ菊キクをヲまマたタかカ  
 ハハ重オモさサまマぐグハハ鼻ハナをヲてテ見ミせセくク菊キク 菊キク 菊キク  
 杖ツエてテくクのノ梅ウメのノよヨりリとトやヤこコさサくクはハ菊キクをヲ  
 是コノかカどドのノ色イロをヲこコせセくク菊キクをヲまマたタかカ  
 菊キクにニはハのノ標ヒラ記キをヲまマたタかカくク菊キクをヲまマたタかカ  
 菊キク見ミぬヌ里サト静シヅしシ菊キクをヲまマたタかカ

戻りても葉に疎ぬくも菊つくる  
 垣ゆるく窓さく入るる菊 圃  
 此生の襟くとも水さくもちをか  
 季にるぬ沢中の女や草花苑  
 たのしみは源よりさくさくはるか  
 春よるに花唄くりせくさくはるか

女船舟

以秀

五条坊

王才

凉紙

全

角スモトリ鯨人の下よてハ花よはく茶うね  
 一葉

妹離像 あまのひい

野言別 のいみや

吹あはれく地獄もさく小葉垣  
 野宮は牛さくまにさくはるか

丹後まけ 桑 柏

十三夜 じゅうさんや

葉舟の焚く賃しるも後ま月  
 下きありぬものを名いごす  
 後の月野山にぬは動まら  
 船はも常しと影や後ま月  
 不形かが鏡にのく保やはの月  
 庭へ浅は飽のあや後あつき  
 船はぬ陸へるもし後のつき

ふに

入也

凉紙

全

雲舟

丁系

鬼回

あいさつの一とおかー後のつら  
 炊ユタツく見侍あもをー後の月  
 船ヒヤウタンの糸を終ー後のつら  
 宴サカモリも結シ結シ州へ下りじす云  
 結シノムシ糸虫の家は志まらや後のつら  
 文カくー<sup>カ</sup>文シキ雁ハ早路ー後のつら  
 石山へ障のつらあや後まつら  
 水門の鍵ハさひくーのちけつら  
 衣メモトもせぬ柱のまてや後のほら  
 袂メモトまて江中ハあさうけらの月  
 あふりどが黎ヨアケ四へたろま後のつら

素花 笑林 州羽 風馬 巴人 下尾足利 志 山州 一鼠 霞舟 古硯 瀾城

帯フロシキ袂を挽くまひやけちまの月 双飛

寶市たのいら

絲シ穿スふくふふかき月見くを 芭蕉  
 市シ法ホウ月ツキりリふハ九合の絲もかー 涼備  
 絲シも子コ法ホウあア保ホがガ寶ホウぞゾりリふフまマ市シ 司鹽  
 飲イン不フーエ絲シをヲ枕マクやヤ市シ法ホウ月ツキ 柳居  
 兼ケン何ナニハハ賣ウけケもモ寶ホウやヤ市シ法ホウ月ツキ 杜菱

長夜チヤのヨり

ちチとトあアやヤ資シ尋ズ先マくク坊ボウ車クルマ 破了

漆<sup>ヌリ</sup>櫛<sup>シ</sup>のふきをを<sup>を</sup>見<sup>ミ</sup>てもあ<sup>あ</sup>ハ去<sup>ク</sup>一<sup>一</sup>  
き<sup>き</sup>さあや<sup>あや</sup>のゆ<sup>ゆ</sup>く右<sup>ミ</sup>にか<sup>か</sup>一<sup>一</sup>こ<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>  
き<sup>き</sup>さあや<sup>あや</sup>の滴<sup>ツボミ</sup>の徹<sup>トホ</sup>は<sup>は</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>松<sup>マツ</sup>  
涼<sup>スズシ</sup>佈<sup>フ</sup> 汶<sup>ヰ</sup>上<sup>ノ</sup> 瀾<sup>ラン</sup>城<sup>シロ</sup>

夜寒 よさ

汗<sup>アセ</sup>を<sup>を</sup>け<sup>け</sup>一<sup>一</sup>く<sup>く</sup>星<sup>ホシ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>さ<sup>さ</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>に<sup>に</sup>る<sup>る</sup>  
あ<sup>あ</sup>さ<sup>さ</sup>ふ<sup>ふ</sup>乃<sup>ノ</sup>一<sup>一</sup>日<sup>ヒト</sup>髪<sup>カミ</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
欄<sup>ラン</sup>干<sup>カン</sup>の<sup>の</sup>人<sup>ヒト</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>む<sup>む</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
と<sup>と</sup>山<sup>ヤマ</sup>の<sup>の</sup>松<sup>マツ</sup>に<sup>に</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>き<sup>き</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
麻<sup>マ</sup>呂<sup>ロ</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
茶<sup>チャ</sup>花<sup>ハナ</sup>は<sup>は</sup>肩<sup>カミ</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>

去小麻呂  
砧<sup>シズメ</sup>上<sup>ノ</sup>

涼<sup>スズシ</sup>佈<sup>フ</sup> 全<sup>ゼン</sup> 全<sup>ゼン</sup> 全<sup>ゼン</sup> 全<sup>ゼン</sup> 麥<sup>マク</sup>水<sup>スイ</sup>

ふ<sup>ふ</sup>菊<sup>キク</sup>は<sup>は</sup>涼<sup>スズシ</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
夜<sup>ヨ</sup>衣<sup>イ</sup>一<sup>一</sup>の<sup>の</sup>被<sup>カ</sup>帳<sup>ヤ</sup>に<sup>に</sup>美<sup>ミ</sup>の<sup>の</sup>入<sup>イ</sup>は<sup>ハ</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
物<sup>モノ</sup>喜<sup>キ</sup>は<sup>ハ</sup>八<sup>ハチ</sup>時<sup>ジ</sup>に<sup>に</sup>さ<sup>サ</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>涼<sup>スズシ</sup>の<sup>の</sup>障<sup>サウ</sup>敷<sup>シ</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>む<sup>む</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
翁<sup>ウ</sup>冠<sup>カン</sup>茶<sup>チャ</sup>の<sup>の</sup>と<sup>と</sup>氣<sup>キ</sup>も<sup>も</sup>さ<sup>サ</sup>め<sup>メ</sup>て<sup>テ</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
故<sup>コ</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>を<sup>を</sup>摺<sup>ス</sup>む<sup>む</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
栗<sup>リ</sup>焼<sup>ヤク</sup>く<sup>く</sup>枝<sup>エ</sup>に<sup>に</sup>伊<sup>イ</sup>字<sup>ジ</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
菱<sup>シズメ</sup>に<sup>に</sup>飛<sup>トビ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>障<sup>サウ</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>む<sup>む</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
り<sup>り</sup>尻<sup>シ</sup>も<sup>も</sup>船<sup>フネ</sup>中<sup>ナカ</sup>に<sup>に</sup>志<sup>シ</sup>す<sup>ス</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
返<sup>ヘン</sup>辞<sup>ジ</sup>く<sup>く</sup>發<sup>ツク</sup>燭<sup>ク</sup>の<sup>の</sup>に<sup>に</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>  
塗<sup>ヌ</sup>桶<sup>ツケ</sup>に<sup>に</sup>爪<sup>ツメ</sup>を<sup>を</sup>さ<sup>サ</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>

可<sup>カ</sup>登<sup>トウ</sup> 冠<sup>カン</sup>子<sup>シ</sup> 凉<sup>スズシ</sup>素<sup>ソ</sup> 里<sup>リ</sup>朝<sup>チウ</sup> 可<sup>カ</sup>由<sup>ユ</sup> 帶<sup>タイ</sup>河<sup>カ</sup> 太<sup>タイ</sup>阜<sup>フ</sup> 蝶<sup>テフ</sup>角<sup>カク</sup> 柵<sup>サツ</sup>門<sup>モン</sup> 梅<sup>バイ</sup>圃<sup>ボ</sup> 吟<sup>イン</sup>風<sup>フウ</sup>

傾<sup>ウタ</sup>麻<sup>子</sup>の齋<sup>スツ</sup>湯<sup>ス</sup>志<sup>ス</sup>め<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>む<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
そ<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>び<sup>ス</sup>の<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>は<sup>ス</sup>へ<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>瘦<sup>ス</sup>は<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>む<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
隅<sup>ス</sup>く<sup>ス</sup>へ<sup>ス</sup>目<sup>ス</sup>は<sup>ス</sup>け<sup>ス</sup>る<sup>ス</sup>海<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>む<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
や<sup>ス</sup>り<sup>ス</sup>び<sup>ス</sup>の<sup>ス</sup>袖<sup>ス</sup>に<sup>ス</sup>か<sup>ス</sup>く<sup>ス</sup>海<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>む<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
懐<sup>ス</sup>へ<sup>ス</sup>懐<sup>ス</sup>ち<sup>ス</sup>る<sup>ス</sup>龍<sup>ス</sup>も<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>む<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
八<sup>ス</sup>景<sup>ス</sup>は<sup>ス</sup>隣<sup>ス</sup>子<sup>ス</sup>に<sup>ス</sup>そ<sup>ス</sup>ろ<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>む<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
あ<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>く<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>龍<sup>ス</sup>も<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>む<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
志<sup>ス</sup>ろ<sup>ス</sup>く<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>麻<sup>ス</sup>も<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>む<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
香<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>へ<sup>ス</sup>く<sup>ス</sup>炭<sup>ス</sup>にも<sup>ス</sup>不<sup>ス</sup>炭<sup>ス</sup>の<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>む<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
炭<sup>ス</sup>室<sup>ス</sup>に<sup>ス</sup>担<sup>ス</sup>晴<sup>ス</sup>神<sup>ス</sup>も<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>む<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
い<sup>ス</sup>ふ<sup>ス</sup>て<sup>ス</sup>見<sup>ス</sup>る<sup>ス</sup>他<sup>ス</sup>の<sup>ス</sup>衆<sup>ス</sup>見<sup>ス</sup>は<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>む<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那

由 戸  
几 山  
垂 芝  
眠 石  
嘯 山  
一 嵐  
可 也  
洗 雪  
祇 翠  
巴 夕  
西 羊

擣衣はぬ

泣<sup>ス</sup>見<sup>ス</sup>に<sup>ス</sup>ハ<sup>ス</sup>君<sup>ス</sup>せ<sup>ス</sup>ぬ<sup>ス</sup>く<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>ぬ<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
と<sup>ス</sup>山<sup>ス</sup>に<sup>ス</sup>月<sup>ス</sup>の<sup>ス</sup>ゆ<sup>ス</sup>き<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>じ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>ぬ<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
物<sup>ス</sup>者<sup>ス</sup>は<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>ま<sup>ス</sup>く<sup>ス</sup>映<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>る<sup>ス</sup>那  
い<sup>ス</sup>ふ<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>は<sup>ス</sup>女<sup>ス</sup>に<sup>ス</sup>い<sup>ス</sup>ふ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>ぬ<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
ま<sup>ス</sup>い<sup>ス</sup>ひ<sup>ス</sup>子<sup>ス</sup>の<sup>ス</sup>香<sup>ス</sup>に<sup>ス</sup>と<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>つ<sup>ス</sup>く<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>ぬ<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
看<sup>ス</sup>か<sup>ス</sup>して<sup>ス</sup>擣<sup>ス</sup>衣<sup>ス</sup>の<sup>ス</sup>ま<sup>ス</sup>は<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
尼<sup>ス</sup>寺<sup>ス</sup>に<sup>ス</sup>登<sup>ス</sup>は<sup>ス</sup>文<sup>ス</sup>ゆ<sup>ス</sup>く<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>ぬ<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
二<sup>ス</sup>朝<sup>ス</sup>も<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>ま<sup>ス</sup>く<sup>ス</sup>久<sup>ス</sup>し<sup>ス</sup>き<sup>ス</sup>ぬ<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那  
隣<sup>ス</sup>も<sup>ス</sup>あ<sup>ス</sup>ま<sup>ス</sup>く<sup>ス</sup>い<sup>ス</sup>ふ<sup>ス</sup>さ<sup>ス</sup>ぬ<sup>ス</sup>ら<sup>ス</sup>那

兒 士  
一 音  
玉 斧  
不 殘  
西 羊  
双 飛  
涼 楓  
鬼 來  
鳳 左

奇にるんこのぐさひしき砵う那  
門あのおあささひしき砵う那  
紙杖は折るあはせ侍さめくう那  
こまのいハをささく砵う那  
女房に剥くくさくや小使さめく  
毀他は拍子にあさく我ゆく  
絶頂く宿見て居侍さめく  
ささく麻に映はさめく

樹仙  
宜考  
去路  
雨石  
希因  
車宇  
白陀  
秀陽

是あ少保亭之に之を新酒小

其角

新酒

位在の練もるにあ新酒小

柳居

魚簾寺 あどろ

あさくは麻布を折あどろ小

汶上

露霰 いゆ

おさくてもささくハほや露志が  
西条圃に粗のぬきや露志が  
粟の今や宙りつゆ  
菊はもるおにつく日や露志が

蘆錐  
洗雪  
涼傘  
希因

霧 つゆ

あふりやほまむに踏まにをゆ

をゆは 鬼路

峰越鳥 のをかこ

一とまむ絶頂に湖や鳥の丁急

汶上

熊館 かくまのた

本に熊の新や栗をゆまこぼ

出ま八代 五鶯

虫擇 むしえ

特名の袖をむしにして重えり

破了

櫻ありに櫻あふり〜串のあり  
擇〜に蟹も大まぞ 會 虫 数

京

貞室

梅里

爵入大水鳥蛤 むいめたいをいはい

に〜てよ〜砂水やむ〜も〜出

涼俤

紅葉鯉 もみぢ

麻糸に〜のほ夕日やまみぢ解

汶上

地錦 つと

つ〜桂〜竹四ふむあ〜〜小

芭蕉



赤松がくおのが清くうりつゝのいぬ

尾 菜人

萬年青

とねも

水くけく朱を研直におもとく  
美にまゝく中の時ほさあゆま

雨葉  
維鳩

紅葉

ぢい

目心くわあう先て出をぬ葉く  
情たの思くくハ海くほもみちく  
水おちくくくくはくお葉く  
船旁のくく吹くへきりみちく

希因  
左菊  
凉信  
大阜

みりくはに麻のまじぶどぬ葉く  
乃山へ日ハ葉くはゆくとみちく  
洞水の菴葉くへくもみちく  
物の乾葉く京は晴くやくもみち  
者かきぬ道をさくくお葉く  
はやくに雨の葉くほもみちく  
掃人の苗にも葉くもみちく  
洗濯へまくハつくろふもみちく  
多ハ皆葉くぬに葉くくもみちく  
葉くは葉くくく思の物くくもみちく  
泊岸に解くもくく返葉くもみちく

一嵐  
瀨城  
麥林  
阿坡  
帛糸  
白枝  
柳居  
伊山  
左文  
吼圭  
芳楚

銀杏いて

仮カナまつげくもの、花ハナをくいてみよ

下弦施子  
午仙

松不變色まついろをかへむ

冬フユのまじく海ウミにまじり松マツのい海ウミ

加十

南天燭ナンテンロウ

あまや株カネに海ウミせくかけく星ホシく

下弦施子  
羽臣

賽珊瑚サイ珊瑚

野ノにニくクくク星ホシくクしシくクめメをヲどト、  
洞ホラ壁トコはハ小コまマのノ室ムロやヤ梅ウメもモどトさ  
あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ  
あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ  
見ミゆユのノ鼻ハナ志シづヅくクるルまマくクるルもモどトさ

乙路  
焠午  
岷郎  
少波  
破了

栗クリ

あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ  
あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ  
あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ  
あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ  
あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ  
あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ  
あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ  
あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ  
あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ  
あアまマのノ美ミはハあアいイでデ見ミゆユやヤ梅ウメもモどトさ

凉侖  
理帆  
宗瑞  
芙白

回後の恥るるも粟も 杓シヤク子コクク分分  
おち栗や 持ステ眼ゴに差をききくゆく

下路下路中中  
双飛

椽子ぐらん

ぐんぐんの飛ぐ如蓋の暴アラシ作作

見風

柿かき

柿シボシの味や 女もききくらすも

下路下路小見川小見川  
仙老

梨が

家もやれにとろろ梨のい海

下路下路天羊天羊  
壺洲

柘榴ざくろ

下路をくりくはさか柿柘榴を  
乙路も心シカほにも似く柘榴を  
里の路ハ消えくはくろくろく  
涼宇 涼宇 涼宇 涼宇  
足利 足利 足利 足利  
六柿 六柿 六柿 六柿  
花明 花明 花明 花明  
眠石 眠石 眠石 眠石  
笑牛 笑牛 笑牛 笑牛

新本を以て破にむせしゆく松栢を 凉佈

柑 んみ

神農も嘗てハまふみかんを 帛岡

包橘 うらじ

董好に良負のおふさかすトト 再可

金橘 きんきつ

金橘や 嗅ぐハ猫の趣 オモ まハ 自來 武秩父加

田青橙 たいせい

四喜柳の本卦かハアウマウマウ 陸奥越前 芥川

饅頭柑 まんとうかん

饅頭柑や まんとうかん 先ハ身 せんハみ 菊史 仙臺

小袖 せうそで

能歯 のゑは 小袖 せうそで のつく のつく 味 あじ 梅里 むめり

よはる よはる 此 こゝ あ あ 小袖 せうそで 千林

榎子 えんこ

さびーしやや芳野を極子に思ふし終

江戸 桃隣

推子 のいひ

子鞋に推子もさするゝおくれり  
桂の美やまきゝるべゝ葉ハ見しに

尺艸 涼傘

菓 この

露露差に滴の確居このいり香

西洋

殊夕 あきの

樹幅 カケモノ を見ても通ちや海まらくも

涼傘

お減るゝあたぬ袖や海の小  
さびーしや家にはふまや海の小も  
海の美やひと山あをうちかが先  
ひそくと麻にゆくもや海はくし  
漕ぐゆくも通あもあうゝ海の小も  
多起ゝ水もうごけ海の小も  
空網にゝゝ翫さや海はくも  
逆旅婢 逆旅 船に翫の志づくや海の小も  
出女の備あやうゝやあきののくも  
持にゆく跡ハなほやあきののくも

双飛 六掃 伊豫三ッ 鬼丈 士高 青藍 眠石 笹叩 千竹 濃は山 桐谷 凡山

暮 殊くあさの

ゆく路やまのぬほは水に入侍  
 け 秋や暮の後にハ不とぎ  
 小暮よのかざりハはびー黄の作  
 名のまらぬ雨にまらり路まら  
 り路や持香園佛志まを、おひとや  
 懐いよよよに拵く路まら  
 新路や西瓜の中ハ水 忠 吉  
 老ユ新のそをゆやまはしけ  
 り路のそもまらいといとくはま  
 枝にあ保相の一葉や路のくも

尾 理 然

越中清川 知十

涼 節

斗 光

た 菊

下院山 松 菊

伊勢山 吳 雪

越後山 見 風

林 雅

萩 路

アナカホ  
 葉牛茶の枝まら拵く路のくも  
 葉新にまらまら 儀もあまはら  
 葉もせぬはナスビ茶のそや路のくも  
 葉瓜ハ路中拵くけに路のくも  
 葉路のそくこがまおまら

醉 菊

秦 龜

一 鼠

梅 路

麥 林

古今片歌明題集卷之三

